

平成30年度 職員研修全体計画

盈進小研修係

1 研修主題

一人一人が主体的に学び、自らの力を発揮できる盈進っ子の育成

2 研修主題について

これからの社会は、科学技術の急速な進歩、国際化、情報化、価値観の多様化など、変化の激しい社会となる。そのような状況に、正面から対処し、たくましく、そして力強く生き抜くためには、生涯にわたり自己を教育し続けることが重要となってくる。

つまり、どのような方向へと変動するかがはっきりと予測できない状況下において生じる諸問題から、どこにどんな課題があるかを正確に見極めることが大切である。そして、自らの知識や技能などを駆使しながら、いろいろ課題解決の方向性を主体的に判断し、解決していく能力や資質を育成していくことが重視される。

私たちはこのような学校教育への高い要請に応うるべく、上記のような研修主題を設定した。

ここで設定する『主体的に学び、自らの力を発揮できる』とは、一人一人が明確な課題意識を持ち、解決のために構想し、試行錯誤を粘り強く繰り返しながら主体的に解決の方向へと考えを進めていくことができるような力である。また、解決の過程の中で、友達と磨き合い・高め合う活動を通して、各々のよさや可能性を認め合い、生かし合うとともに、解決の過程や結果を表現したり、学習の成果を日常生活の中で実践していったりする力である。換言すると、これからの教育で必要とされる自己教育力である。

3 研修の視点

視点1

学習内容の目標を明確にし、学習形態や指導過程を工夫しながら効果的な支援活動を行うことで、子どものよさや可能性を伸ばすことができるようにする。

視点2

全教育活動を通して計画に基づいた人権同和教育や生徒指導を推進することで、豊かな心を持ち、共に優しく助け合い伸びようとする子どもを育てることができるようにする。

視点3

授業を伴った研修や実技研修を計画的に推進したり、校外研修会等に積極的に参加したりすることで、自らの指導力を高めることができるようにする。

4 研修の基本的な考え方

- (1) 平成29年度と同様、テーマ研修と一般研修の両面からの研修を推進する。
- (2) テーマについては、次期学習指導要領を踏まえたものにする。
- (3) 月曜日の研修が中心であるが、他の曜日における研修（一般研修、研究推進委員会等）も、無理のない範囲で設定する。その計画については、教育課程の年間計画等と照らし合わせて立案する。
- (4) 研究授業及び授業研究については、年3回実施し、講師を招聘する。学習指導要領に沿った授業を通した実践研究を実施する。なお、1月には、2年間の研究のまとめとして、研究公開を行う。

5 研修の努力点

- (1) 本校の研修主題を踏まえた、計画的な研修の推進を図る。
- (2) テーマ研修の方向性を明確にし、理論とその実践に基づく研究の充実を図る。
- (3) 教科部との連携を図りながら、理論研究及びその検証授業を踏まえた研究の展開に努める。
- (4) 個人研修の促進と充実に努めながら、その全体への波及を図る。
- (5) 研究の成果と課題を各教科等で明確にし、その共通理解を図ることができるようにするとともに、研究の深化及び拡充を図る。

6 研修の方法

- (1) 研修課題を把握し、年間研修計画を作成する。
- (2) テーマ研修に必要な実態調査をし、その結果を分析しながら実態を明らかにする。
- (3) 実践（授業）を伴った研究をし、理論と実践の一体化を図る。
- (4) 研究の過程を大切にする研修を推進する。
- (5) 計画→実践→評価→改善（P→D→C→A）のサイクルを重視し、研究前後の子どもの変容を的確に把握しながら、研究の深化と累積に努める。

7 テーマ研修の進め方について

平成30年度 テーマ研修 研究主題

子ども一人一人が思いや考えを表現するための記述力の育成
～「協働的な学び」を生かした学習指導の改善～

- (1) テーマ研究主題に迫るため、全職員で研修を進める。
- (2) 研究推進委員会を組織して研究の企画立案を行い、テーマ研究の推進にあたる。
- (3) テーマ研究と並行して他の教科・領域等も研究・実践を行い、研究の深化・拡大の推進を図る。
- (4) 「研究のあゆみ」を作成することにより、研究の成果を次年度に生かし、全員が共通の認識を持つことができるようにする。
- (5) 研究テーマの研究推進には、常に共通理解を図りながら、全職員の協力態勢のもとで行う。さらに、授業を通じた実践研究を行い、その実践研究についても、全職員が共同であたることとする。
- (6) 教材研究や指導案検討等においては、学年部や研究班を中心に進め、密度の高いものにする。
- (7) 校外研究会、短期研修会等に参加した場合は、相互の資質向上のために内容等をまとめ、全職員に還元していく。
- (8) 現行学習指導要領についての研修を深めるとともに、次期学習指導要領を踏まえた実践的な研修を行う。
- (9) 平成29年度より北薩地区研究協力校（国語科）の指定を受けている。本年度は、2年次であり、1月に公開研究会を行い、研究の成果を発表する。
- (10) 研究授業・授業研究について
研究授業を年3回実施する。その際、外部から講師を招聘し、研究の充実を図る。
6月 研究授業、授業研究Ⅰ（2年・5年・特別支援学級）
10月 研究授業、授業研究Ⅱ（1年・4年・特別支援学級）
1月 公開研究会（3年・6年・特別支援学級）
※ 全体での指導案検討や授業研究・研究協議すると時間が少なくなってしまうので、指導案検討や授業研究・研究協議等は、「学年部会」で行う。公開研究会の指導案検討・研究協議・分科会等も「学年部」で行う。研究授業・授業研究は、同一日実施。
- (11) 公開研究会について
 - ① 公開日 平成31年1月24日（木）
 - ② 公開授業学年 下学年・上学年・特別支援学級※ 細かな計画・分担・スケジュール等は、後日提案。

平成30年度 職員研修年間計画 (案)

月	日	曜	研修内容	担当
4	4	水	前半：第1回職員研修 (年間計画・テーマ研究案・共通理解確認等) 後半：特別支援推進委員会	研修 特別支援教育
	10	火	研究推進委員会 (研修部)	研修
	13	金	エピペンの使用方法について《B校時》	保健
5	7	月	テーマ研修 前半：研究内容・分担等確認・理論研修 等 後半：研究班会 (活動内容・計画)	研修
	17	木	研究推進委員会 (研修部)	研修
	21	月	テーマ研修 全体会 (理論研修)・研究班会	研修
	28	月	テーマ研修 全体会・学年部会 (研究授業I 指導案検討 等)	研修
	29	火	AED・救急蘇生法《B校時》	保健 (講師招聘)
6	4	月	人権同和教育①	人権同和教育
	15	金	防火防災《B校時》	防火防災
	18	月	スケッチ大会審査会・絵の描き方	図工 (講師招聘)
	25	月	テーマ研修 全体会 (研究授業・授業研究I)	研修
7	9	月	テーマ研修 全体会・研究班会	研修
夏季 休業中			○テーマ研修全体会・学年部会 (指導案検討) 研究班会 (紀要原稿作成) 等 ○特別支援教育① ○外国語 ○研究推進委員会 ○国語 (作文合評会) ○安全教育 ○道徳 ○NRT分析・学力向上 ○サービス ※ 職員アンケートより	各担当
9	27	木	研究推進委員会 (研修部)	研修
10	1	月	人権同和教育②	人権同和教育
	11	木	研究推進委員会 (研修部)	研修
	22	月	テーマ研修 学年部会 (公開授業指導案検討①)・研究班会	研修
	29	月	テーマ研修 全体会 (研究授業・授業研究II)	研修
11	12	月	特別支援教育②	特別支援教育
	13	火	研究推進委員会 (研修部)	研修
12	10	月	テーマ研修 学年部会 (公開授業指導案検討②)・研究班会	研修
	21	金	服務	
1	8	火	テーマ研修 全体会 (公開打ち合わせ・諸準備)《職員会議の中で》	研修
	10	木	研究推進委員会 (研修部)	研修
	22	火	テーマ研修 全体会・学年部会 (研究公開最終確認)《B校時》	研修
	24	木	地区研究協力校 公開研究会	研修
	28	月	テーマ研修 全体会・研究班会 (研究公開反省・まとめ)	研修
2	14	木	人権同和教育③《B校時》	人権同和教育
	15	金	研究推進委員会 (研修部) 次年度研修計画	研修
3	11	月	テーマ研修 全体会・研究班会 (研修のまとめ…次年度の計画等)	研修

※ 校内の環境整備・諸準備・公開研究会に関わる作業等は、職員作業で取り組むこともある。

テーマ研修について

1 研究主題

子供一人一人が思いや考えを表現するための記述力の育成
～「協働的な学び」を生かした学習指導の改善～

2 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

これからの社会は、科学技術の急速な進歩、国際化、情報化、価値観の多様化など、変化の激しい社会となる。そのような状況に、正面から対処し、たくましく、そして力強く生き抜くためには、生涯にわたり自己を教育し続けることが重要となってくる。

つまり、どのような方向へと変動するかがはっきりと予測できない状況下において生じる諸問題から、どこにどんな課題があるかを正確に見極めることが大切である。そして、自らの知識や技能などを駆使しながら、いろいろ課題解決の方向性を主体的に判断し、解決していく能力や資質を育成していくことが重視される。

情報化の進展に伴い、多くの情報の中から自分に必要なものを素早く正確に見出し、適切に判断・処理する能力が必要とされる。また、自らの考えや主張を的確にまとめ、分かりやすく情報として発信していく能力も必要とされる。そして、それらの能力を高めるためには、論理的思考力を育てていく指導が必要であると考えられる。

(2) 新学習指導要領等から

平成29年6月に告示された小学校学習指導要領国語編では、国語科で育成を目指す資質・能力を「国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」と規定するとともに、目標の構成が「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱に整理され、考える力や感じたり想像したりする力を養うこと、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め自分の思いや考えをもつことなどができるようにすること等の重要性が示された。

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

また、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善（アクティブ・ラーニングの視点に立った授業改善）を推進することが重要であることが示され、子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結びつけて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるよう、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に向けた取組を活性化していくことが重視されている。

(3) 鹿児島学習定着度調査・全国学力・学習状況調査等から

鹿児島学習定着度調査における課題として、「『読むこと』の要旨を捉え、効果的に説明することや筆者の意図を捉えること、『書くこと』の目的や意図に応じて正確に引用して、自分の意見を書くこと」が挙げられている。全国学力・学習状況調査の結果においても、複数の内容を含む文章中の語句の役割や相互関係を理解することや、調べて分かった事実に対する自分の考えを、理由や根拠を明らかにして書くことなど、「活用」に関する記述式問題を中心に課題があるとされており、思考力・判断力・表現力の育成が課題となっている。

(4) 学校教育目標・グランドデザインから

～盈進小学校の教育目標～
主体性・創造性に富み、心身共に健康で、人間性豊かなたくましい盈進っ子の育成を図る。
校訓『盈して進む』

※ 盈進小学校の重点的な教育課題及び努力点と方策から

- ① 子ども一人一人が授業の中で自分なりの方法で考えを進んで確かめ、基礎学力を身に付けることができるようにするとともに、「盈進タイム」等を活用し、学校の学習と連動した家庭学習（予習・復習）に取り組んだり、進んで読書をしたりできるようにする。

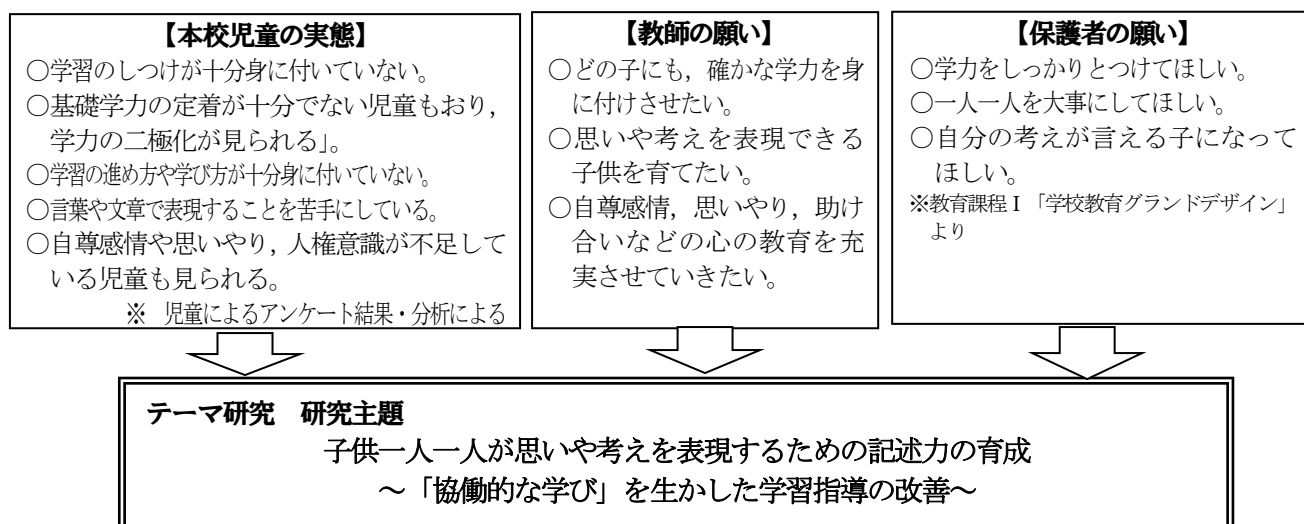
努力点 (1) 「基礎基本の定着を図る授業の充実」

- ④ 児童自ら課題を発見し、一人一人が自分の考えをもち、それを確かめることができるような学習指導を工夫する。（考える時間の確保・「北薩授業作りの3ポイント」等）
⑤ 主体的な学び・対話的な学び・深い学びの実現に向けて授業改善を推進するために、相手意識をもって分かりやすく発表したり、友達との交流を通して自分の考えを見直し深めたりすることができるような指導を工夫する。
（ペア・グループ学習の日常化・多様な言語活動の実践）

※ 学校教育目標グランドデザインから

- ◎ 「確かな学力」の育成にかかわる重点目標
(1) 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の推進
(2) 表現力（自分で考え伝える力の育成）の向上を図る。
① 言語活動+探求活動を重視した教科指導の充実（考える場の確保→考えたことを発表）
② 校内の言語環境の整備・充実

(5) 児童の実態・教師の願い・保護者の願いから



3 研究仮説

- ① 指導計画や学習過程の工夫をし、言語活動を意図的・計画的に取り入れて実践していくならば、子供たちは主体的に学習する力を身に付けることができるだろう。
② 自分の思いや考えを記述できるようにするための手立てを工夫し、協働的な学びの場を設定するならば、たちの記述力は高まるであろう。

4 研究内容

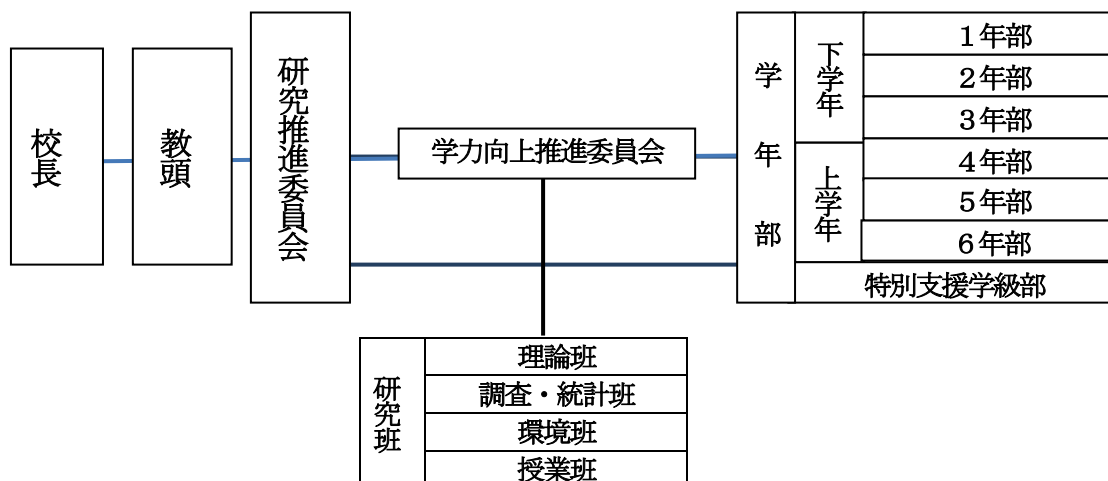
- ① 学習指導過程の工夫（「共通実践事項」の取組）
- 1 指導計画表（学習計画表）の作成 【仮説①】
 - 2 子供が主体的に（見通しをもって）学ぶための工夫 【仮説①】
 - 3 「記述する」時間の設定の工夫 【仮説②】
 - 4 「協働的な学び」の時間の設定 【仮説②】
 - 5 「振り返り」の時間の設定 【仮説①】
- ② 指導計画の工夫（課題解決的な単元構想 見通しをもち、主体的に取り組むための工夫）【仮説①】
- ③ 学習の進め方・発表話型【仮説②】
- ④ 学習形態の工夫（一人・ペア・グループの学び方、進め方）【仮説②】
- ⑤ 「記述力」を育成するための手立て【仮説②】
- ⑥ 言語環境の整備（国語コーナー、教室や廊下設営等）【仮説①】
- ⑦ 特別支援教育の視点に立った学習指導の工夫・改善（特別支援学級部）【仮説①・②】

5 めざす子ども像

主体的・協働的に学習を進めながら、自らの思いや考えを書いて表現できる子ども

	低学年	中学年	高学年
仮説①	本時でどんな学習をするのか理解し、進んで学習に取り組むことができる子ども	学習計画から単元と単位時間の学習に見通しをもち、意欲的に学習に取り組むことができる子ども	学習の見通しをもち、主体的に学習に取り組めるとともに、自らを振り返り成果と課題を考えることができる子ども
仮説②	友達を書いたもののよいところや感想を伝えることができる子ども 語と語、文と文につながるのある文章を書くことができる子ども	友達を書いたものについて、意見を述べ合うことができる子ども 相手や目的、条件に応じて、話の中心を明確にし、理由を挙げて書くことができる子ども	友達を書いたものの表現や内容について助言し合うことができる子ども 目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように様々な工夫を用いながら書くことができる子ども

6 研究組織



7 研究班活動

	理論班	調査・統計班	環境班	授業班
活動内容	研究内容全般の推進理論の構築	児童の実態・変容調査	教室等設営・日常実践の提案	研究授業、授業研究の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・理論の構築 ・全体構想の作成 ・目指す子ども像の作成 ・指導計画の工夫 ・シンキングスキルとラーニングスキルの提案 ・研究のまとめの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態調査実施 ・集計・分析 ・研究のまとめの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語環境の整備 ・掲示用資料作成・設営 ・語彙表の作成と活用 ・研究のまとめの作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業の実践 ・学習指導案の様式検討 ・研究授業・授業研究推進 ・話し合いカードの見直し ・研究のまとめの作成